

東京商工会議所女性会主催座談会

「女性の躍進が日本経済に与えるインパクト」



おとぎの国・東京デイズニールランドの入り口、舞浜駅。ここからほど近い株式会社オリエンタルランド本社会議室にて、平成18年2月3日、座談会がもたれました。

女性を活用していくことに特化した経営者として、それぞれの立場から、女性が躍進していくための視点と経営方針、社会のあり方、今後の日本経済への影響についてなど、多岐にわたり熱く語って頂きました。

出席者

株式会社オリエンタルランド

代表取締役社長兼CEO 福島 祥郎 氏

トレンダーズ株式会社

代表取締役 経沢 香保子氏

全国・東京商工会議所女性会会長

齋藤 朝子 氏

お客様に「ハピネス」を提供するハードとソフト

司会 福島社長のオリエンタルランドでは、女性の方が生き生きと働いていける環境づくりのために、何か特別な工夫をされていますか。

福島 私どもの会社では、1万

9,000人以上の社員がいます。

そのうちの約66%が女性です。私

どもの仕事は、通常の企業とは違い、「理想」、「非日常」の空間があります。その中でお客様のおもてなしをします。ハード面だけではなく、従業員の心配りがセットになった一つの商品です。ですから、入社したときにお客様に「ハピネス」いわゆる幸せを提供するのが、我々の仕事だということをまず社員の意識の中へ植えつけます。そこで、みんなと一緒に仕事をしながら動いていく、ジョブトレーニングが必要なんです。

また、自分に対する投資が必要です。それは、お客様にはいろいろな方がいます。絵が好きな方、器や花が好きな方。だから自分が



(株)オリエンタルランド
代表取締役社長兼CEO
福島 祥郎氏

女性の心をつかむ女性の視点

司会 経沢社長は、26歳で起業され、「女性の起業を支援する女性の創業塾」も開講されていますね。起業されたきっかけや、女性に関連したビジネスを展開される着想、それか

そのような知識を持っていないと対応できません。

来園されるお客様の70%強が女性です。女性に対する内面的な部分は女性のスタッフの対応がよく届くということはありませんね。

齋藤 私の仕事もサービス業ですから、いらっしゃるお客様のうち60%が女性のお客様です。多い月には60%になりますから、やはり女性の視点が大変重要だと思っています。



トレンダーズ(株)
代表取締役 経沢 香子氏名

ら原点などを教えていただけますか。
経沢 私は、会社を始めてまだ6年ぐらいです。最初は「株式会社リクルート」、次に「株式会社楽天」に勤務した後、起業しました。その頃は、マーケティングとかITブームだったので、私は逆にアナログでいいこうと思いい、女性の中でも、一番消費の影響が強いと言われていてF1といわれる層(20~34歳)の人だけを集めて、その中でも、さらに可処分所得の高位トレンドリーダーの人だけをアナログでネットワークしました。現在、2,000人ぐらいいますが、その人たちを活用したマーケティングを中心にやっています。

また、女性の起業塾やネイリストの派遣など、女性の心をつかむビジネスを幾つか経営しています。現在、社員は20人で全員女性です。

現在、女性であることを楽しみなから、それをビジネスに活かす事ができる時代が来ていると思っっています。インフラよりもコンテンツの時代なんです。そういう意味では、女性であることがビジネス上有利に働く機会が、日本経済の中で非常に多くを占め始めているのではないのでしょうか。

福島 今までは、ものをつくって、機能をつくっていったんです。機能より今後はソフト。ソフトとは五感、デザインですよ。何となく見て気がいいとか、色などの女性の感覚が、これからは必要になってくると思いますね。

自己研鑽で女性経営者が力をつける

司会 齋藤会長は、神奈川県奥湯河原で「山翠楼」という老舗料亭旅館の経営のかたわら、東京商工会議所の特別顧問であり、女性の会長のとしていろいろとご尽力をいただいております。そういった立場もありますし、現在、女性の時代と言われ、女性経営者を取り巻く環境の変化もあると思います。そこで、最近



全国・東京商工会議所
女性会会長 齋藤 朝子氏

の女性経営者について伺いたいたいです。

齋藤 男女共同参画社会と言われて、制度もできていますが、現実としては、日本は女性の社会進出がまだまだ遅いです。今、女性の経営者は経営者全体の約5.6%です。中国の工業連合会へ行つて聞いたところ、女性の経営者が20%もいらつしゃって、家庭においても、男性がすごくサポートなさるのが日本とは違う面ですね。30代以上の世代では、日本の風土というか伝統によって、女性が働きにくい雰囲気でしたよね。それによって日本では、女性の社会進出が遅れてきたのではないのでしょうか。

しかし、見渡してみると、女性の教育水準は、世界でも大変高いほうだと思います。男女共に同じような

教育を受けられるようになりました。そういう環境を与えられていますから、なかなか進出できないというだけではなくて、自ら研鑽を重ねて実力をつけることが、女性の経営者にとって、一番大切なことではないかと思えます。

強い組織にしていくために、

女性をどう教育していくか

司会 今後、企業を強い組織にするためには、女性社員の比率の向上をはじめ、社員の構成に多様性を持たさなければいけないとよくいわれます。これについてはいかがですか。

福島 女性と男性の組織がどうのこのうのという意識はあまりありません。しかし「自分が何をしたいのか」「どういうビジョンや目標があるのか」ということが、女性にはちよつと足りないんじゃないかと思えます。「何となく上を目指そう」ということはありますが、ある程度であきらめてしまう。

とくに若い人たちは、女性でも男性でも、自分はこの仕事をやっていればいい、管理職にならなくてもいいという人が多いようです。だから



女性管理職には責任を委譲して、経験を積ませ、自覚を持たせることにしています。人間関係とか、嫌なことを体験していかないと、上に行ってもなかなか務まらないことが多いですからね。

経沢 女性は、枠を越えて仕事をしようとする習慣とか考え方が、確かに欠けている部分はありますね。私

もスタッフに指導するときは「もつと上を見るように」「広く見るように」と常に言っています。

社会の中で、日本の女性がリーダーになるという経験が少ないので、まだそこが勉強不足だなと思います。

齋藤 わが社は旅館ですので、女性が活躍する職場で、役員の3分の1は女性です。すごくまじめにこなしていますし、男性と同等ぐらいにやっています。

私は、男女とも、能力はほとんど変わらないと思っています。むしろ意識の差のほうが大きいのもかもしれません。あえていうなら筋肉力の差、そして子どもが産めるか産めないかの差だけです。

これからは性差ではなく、適性で振り分けられる時代だと思います。

福島 お子さんがいて働くというのは、女性は男性より大変だと思いませんか。妻であり、主婦業もやらなくちゃいけない。母親であり、仕事もあり、四役ですよ。

経沢 私の会社にも4割ぐらい働く母親がいます。私の子供も0歳と1歳です。今はまだ大変なことはないですが、これからいろいろあるので



は、と思っています。

ただ、私は夢を持って働いているので、子どもも夢を持って生きて欲しいな、と思うんです。一緒にいることは普通のお母さんよりはできないかもしれないけれども、何か悩みが発生したときに、たぶん私なりの経験で、それを伝えて、正しい方向、選択肢を与えてあげることができません。それが、私なりの子育てのスタイルだと思っています。

人口減社会に対応した経営とは

司会 昨年から言われていますが、人口減社会、少子化の問題、超高齢化社会、2007年問題などをふまえて、何か特に企業として対応されることが、ありましたらお伺いをしたいのですが。



福島 今、私どもが具体的に取り組んでいることは、ポジションによってですが、高齢者の方を結構採用しているんですね。さらに、定年退職した後も、再雇用制度によって、また勤務していただいています。いろいろ専門的な、あるいは特殊な職業が私どもにはたくさんあるんですよ。そういう方は年齢に関係なく、雇用していききたいというのがありますね。それから、日本全体で考えると、主婦の方にどんどん働いてもらわないと国力が落ちていきます。人数が減れば売上も減ってくるわけですから。

また、結婚しても、あるいはお子さんが生まれても、働きやすい環境や制度も計画しています。

ただ、特に女性だから男性だから、それによって制度を変えろということ

とはないですね。同じ制度でともに頑張ってもらうことが大切だと思います。

経沢 私は例えばフランスの出生率が上がったように、日本も文化的な思想的なものによって、出生率を上げることができないんじゃないかな、と思っています。私は社員に対しても、産んだほうがいいと言うし、両立できるような、いろいろな選択肢は用意したいと思っています。

齋藤 大企業においては、少子高齢化で、どうしても子どもを産んでもらおうと、産休や育休が義務化になりつつありますよね。

中小企業では、なかなかそこまで負担するのが難しいです。まず国の施策として、中小企業を援助することが必要になるのではないのでしょうか。それで、企業も努力しましょうという両輪でいかないと、中小企業はともついでいけないと思います。

経沢 私も、毎年子どもを産んでいた。ただ、今はこれだけIT化されているので、いなくても情報を使える手段はたくさんあったり、会社がある程度システムティックにでき

ば、仕組みによって、その人でなければならぬということが、カバーできる部分があります。それを経営者は常に考えていないといけないですね。

女性が働きやすい会社は、決して女性に対してやさしい会社ではないと私は思っています。どれだけ成長させてあげるかということと、どれだけチャンスを与えてあげられるか、それによって本人そのものが強くなるとか、会社そのものが強くなるということではないでしょうか。



女性会のネットワークと

知恵の活用を

齋藤 人口減少社会において、逆三角形で高齢者が多くて若い人が少ないから、年金問題でも何でも苦しくなります。それを過ぎたときに、特

化した、差別化した製品をつくったり、素晴らしいサービスやソフトをつけていくことで、キラキラと輝く、小さくてもいい国になって欲しいと思います。

従業員に関しては、当社も福島社長のところと同じで、一度定年になった方を再雇用し、かなり細かくパートの人、近所の人などを区切って働いてもらっています。洗い場のようなどころでは、働く時間が3時間でも4時間でもいいという人にお願ひしています。フルタイムでは疲れてしまう、でも半分の時間ならできる、そうすると、家庭を持ちながらでも働いていきます。そういう社会になるのでしょね。

東京商工会議所女性会には500人の会員がおりますが、経営者の人たちがいろいろな悩みを持ち合い、知恵を分け合います。私も若い方たちから元気をいただいています。またネットワークの中には、ビジネスチャンスもあります。このような場を作っていけることが、女性会の意義ですね。

(文・奥山 睦)

(写真/取材情報提供・東商新聞)

東京商工会議所 女性会 平成18年新年懇親会

1月26日東京プリンスホテルパークタワーにて「平成18年東商女性会新年懇親会」が開催されました。

はじめに開会の辞を山野壽子副会長から、次に齋藤朝子会長より次のような新年の挨拶がありました。



「昨年我が国では子どもの出生率が過去最低を更新するとともに総人口が初めて減少するなど、これまで経験したことのない少子高齢化、人口減社会に突入しました。そして経済のグローバル化、高度情報化など我が国の社会経済情勢が急速に発展する中で女性をとりまく環境も急激

に変わってきており、女性があらゆる分野に進出し、女性パワーが日本の社会経済におよぼす影響力がますます高まってきております。東商女性会では約500名の女性経営者の皆様業種、年齢を超えて会員相互の交流と結束をはかり幅広いネットワークを構築しております。特に、昨年の関東商工会議所女性会連合会総会東京大会では東商女性会会員のご支援ご協力により、各界からのご来賓をはじめ総勢1200名の皆様をお迎えし、盛況の内に成功させることができました。さらに昨年から多く



問題

委員会を発足させ積極的に取り組んでおります。本日ここに出席してありますすべての方々にとって素晴らしい一年でありますよう祈念しております」

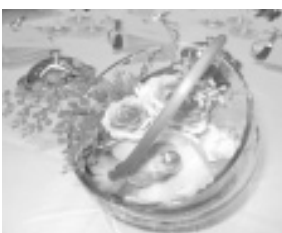


続いて来賓の皆様よりご挨拶をいただきました。はじめに日本・東京商工会議所山口信夫会頭より「今年の商工会議所は実行する・信頼される・愛される商工会議所をめざしております。そのためには女性会の皆様のご協力が必要です。今年も一緒に頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします」とのご挨拶をいただきました。そして内閣府男女共同参画局長取はにわ局長から「昨年末に新しい男女共同参画基本計画ができました。女性の再チャレンジ支援策を進め、女性の継続就業型を目指して考えており、女性の起業支援もあわせて進

めて参りたいと思っております」

最後に東京都生活文化局男女平等参画担当生形稔参事より、「東京都の男女共同参画計画では女性と男性、仕事と家庭、都民事業者と都の3つのパートナーシップを柱としております。東京都の一昨年の出生率は1.05となり危機的状况を迎えております。さらなる子育て支援策を進めて参りますので、一緒に男女共同参画社会に向けて頑張りましょう」とのご挨拶をいただきました

(記・椿 克美)



懇親会の部

はじめにアトラクションとしてミニ・コンサートが開催され、世界的に活躍するサイ・イエングアンさんにオペラ「魔笛」等のすばらしい歌声を披露して頂きました。

引き続き、東京商工会議所女性会小泉清子名誉会長の「今年は戌年です。積極的においに発言し、行動し、美しい日本を作り上げていきましょう。」という乾杯の挨拶で懇親会が始まりました。

そして総料理長によるメニューの紹介の後、和やかな雰囲気とおいしい料理に各テーブルとも会話が弾んでおりました。



続いて齋藤朝子会長による女性会正副会長の紹介の後、渡辺光子副会長により、交流・研修・情報広報担当の各リーダー、チーフサブリーダーの紹介がされました。

山崎登美子副会長により名誉会長、常任顧問、顧問、相談役および常任理事、理事、監事の紹介の後、新入会員の紹介、永年にわたり女性会に貢献いただいた方々への花束贈呈が行われました。

続いて皆様お待ちかねの恒例の抽選会では、会場である東京プリンスホテルパークタワーよりご寄贈の宿泊券をはじめ常任顧問・顧問・相談役の皆様方よりご寄贈の商品券、宿泊券などの豪華賞品が会場前部に飾られ、当選者が発表される度に会場のあるこちらで歓声と拍手が聞かれました。小泉清子名誉会長ご寄贈の訪問着は、みごと山口玲子常任理事が手にされました。山口玲子常任理事からは「信じられない。今までの努力が全て報いられたような気持ち」との感激の感想が聞かれました。

帯が当選されたゲストの山野勉



からは「家内がたいへん喜ぶでしょう」とのご感想を頂きました。

宮田久美子会員のスピーディーな司会でたいへん盛況となった抽選会も終わり、吉川稲美副会長より「想像を超えた災害や道徳感の欠如が引き起こす事件が多い昨今、次世代のために感謝の思いを持って品格ある国家を取り戻すべく思いを一つにし、行動を起こすことが私達女性経営者の使命と責任である」という閉会の挨拶があり、平成18年新年懇親会も盛会の内に幕が閉じられました。

(記・鈴木紀子、石野康子)

出席された新入会員のコメント

㈱ハレキタザワ 北澤美和 様

とても華やかな会で、刺激を受けました。会報などを読んで勉強して頑張ります。

㈱フクシン 福岡初枝 様

大勢の先輩女性達が頑張っているのだから驚きました。経営について語りあえる友人を作りたいです。

銀座コクリコ美容外科

木村久理子 様

将来、皆様のように熱く語れる女性になりたいと思いました。同じ女性として分かち合えるものがあればと思います。

Kプランニング 木原啓子 様

皆様にエネルギーをもらって、やる気ができました。環境問題など社会貢献に女性会として取り組んでいけたらと思います。

このみフラワー 子安木美 様

たくさんの方の働く女性の先輩方の活力や魅力あるパワーをたくさん頂きました。すばらしい方々との出会いに有意義な時間を過ごしました。

(記・椿 克美、鈴木紀子)